

台北日本人学校の子どもたち

台北日本人学校 高島 雄

平成16年度から台湾にある台北日本人学校に派遣されている高島 雄です。派遣地の教育、生活情報をこれからレポートしていくわけですが、一回目は台北日本人学校に通っている子どもたちのことをお伝えします。日本人学校なので基本的には日本と同じ教育をしていますが、台湾ならではのこともあります。今回はそのあたりのことをご紹介します。

○台北日本人学校について

台湾には台北、台中、高雄にそれぞれ日本人学校があります。台湾の首都台北は人口260万人で、多くの日本人がこの都市やその周辺に住んでいます。台北日本人学校は台北市の北部天母地区にあります。日本人学校の向かいにはアメリカンスクールがあり、日本人、欧米人が多く住む国際的な地区です。

現在の校舎は1983年に建てられ、やや古くなってきましたが、体育館、25メートルプール、小プール、グラウンド、テニスコート、ラバーコート、遊具施設など施設は充実しています。



校舎と大王椰子

台北日本人学校は、小学部・中学部の生徒児童数あわせて約800名の日本人学校としては大規模な学校です。本校に通う子どもたちの多くは、台湾に駐在している方たちの子どもたちですが、一時的な駐在ではなく台湾に住み着いた方たちの子どもたちも年々多くなってきています。現在ではおよそ3割がそのような家庭の子どもたちです。これらの家庭は、ご両親が日本人と台湾人、またはその他の国の方である場合が多く、家庭で使われる言語も日本語、中国語、台湾語、英語と様々です。特に低学年においては、日本語の理解が十分に出来ていない子どももおり、配慮や支援が必要な場合があります。

○台北日本人学校の特色ある教育

「思いやりがあり、意欲的・積極的に困難を克服していく行動力のある、心身ともに逞しい人間の育成」「国際人としての心を育て国際性豊かな児童生徒の育成」を教育目標に掲げ、今年度は、語学教育の充実、図書館の充実、福祉教育の充実を重点に取り組んできました。

・語学教育の充実

海外校の特色として語学教育は積極的に取り組まれ、これまでも全学年で英語、中国語の学習を週1時間ずつ授業に取り入れていました。さらに今年度から全学年で中国語を習熟度別指導に変え、小3以上は中国語、英語のどちらかを選択して学べる時間を1時間設定しました。

- ・図書館の充実

台北は他の国や地域に比べると日本のものが豊富に手に入ります。日本の本も手に入りやすいのですが、それでも約1.5倍の値段がします。子どもたちに日本の本を多く読ませ、日本の知識や文化への理解を深めさせたいという思いから、図書館の充実に努めています。さらに、調べ学習に対応するため、今年度、図書館にもコンピューターを導入しました。

- ・福祉教育の充実

これまでも現地の学校との交流会が行われてきていましたが、今年度から盲学校との交流がはじまりました。また、デイケアサービスの玉蘭荘に来られるお年寄りとの交流もはじまりました。台湾はかつて日本の植民地時代があり、日本語の教育が行われていたため、高齢の方は日本語を話されます。低学年では一緒に歌を歌ったり遊んだり、高学年では戦争体験などを話していただいたりしました。

○台北日本人学校の子どもたちの一日

それでは台北日本人学校の子どもたちの様子を紹介しましょう。

- ・登校

小学生は家の人と一緒に校門まで登校します。多くの家庭は学校近くの天母地区に住んでいるため、徒歩による通学がほとんどです。台北市の市街地からは3台のスクールバスで登校してきます。近年日本でも子どもの安全が大きな課題になっていますが、治安の良いといわれる台湾でも、子どもの行方不明や誘拐は時々あります。一昨年は、隣の現地小学校の子どもが誘拐されるという事件がありました。また、交通マナーも良いとは言えず、横断中の歩行者がいるにもかかわらず、車やバイクが横断歩道に入ってきます。そのようなことから、小学生は保護者による送り迎えが必要となっています。

- ・朝の会

朝読書や朝自習をしたあと、朝の会をはじめます。なかでも朝の健康観察は重要です。台湾は亜熱帯に属するため、流行る病気も日本と少し違います。3年前はSARS、去年は腸病毒（日本では手足口病、ヘルパンギーナと呼ばれています。たまに重篤な症状になる場合があります。幼い子どもでは命に関わることもあるため、台湾では恐れられています。）が流行りました。その他に鳥インフルエンザや Dengue 熱も警戒されていました。そのため、流行期や警戒期には、台北市教育局・衛生局の要請で全児童・生徒・職員の検温や健康観察が義務づけられることがありました。

- ・授業

当然のことながら日本の学習指導要領に則って授業は行われます。それに加えて海外校の特色から、語学教育、現地理解に関わる校外学習や交流活動が行われています。日本から派遣される教員だけではこれらのことがカバーできないため、中国語、英語、小学音楽、図工などの教科では現地で教員を採用して指導にあたっています。授業日数は今年度は204日を予定しています。中華圏特有の休みとして旧正月休みが約1週間あります。その分、日本のような祝祭日は4日と少ないです。

- ・休憩時間

グラウンド、ラバーコート、遊具広場、水辺公園などがあり、休憩時間は子どもたちでいっぱいです。小学低学年から中学生まで、サッカーに人気があります。低学年用の広場やグラウンドではいくつものグループが入り乱れてボールを追っています。一輪車や竹馬、縄跳びなどを練習している子どもたちもたくさんいます。水辺公園には鯉や鮒、亀、あひるなどがいて、春にはおたまじゃくし採りもできて、子どもたちの大好きな場所です。校地内には大王椰子やゴムの木、ガジュマル、ハイビスカス、ブーゲンビリア、さくらなど亜熱帯や温帯の木や花が数多く植えられていて、私たちの目を楽しませてくれます。



子どもたちの憩いの場 水辺公園

- ・昼食時間

本校には給食はありません。家から持ってきたお弁当を食べます。家からお弁当を持ってこられない場合は、家の人が注文をすると、近くのハンバーガーショップやお弁当屋さんが学校まで届けてくれます。特にハンバーガーは人気があります。

- ・下校・放課後

下校時には迎えに保護者の方に来てもらいます。低学年の子どもたちは、学校が終わってからしばらく学校の遊具で遊んでいます。しかし、習い事や学習塾も盛んで、小学1年生でも2つ、3つ習い事や学習塾に通っている子どもは珍しくありません。台北はもともと学習塾や習い事が盛んなところですが。英語、中国語、スイミング、ダンス、ピアノ、バイオリン、体操、テニス、サッカー、絵画と種類も多く比較的月謝も安いです。4年生からは保護者が運営する課外活動のクラブに参加している子どもたちもいます。スポーツ系や文化系のクラブが数多くあります。サッカーや水泳、陸上などは台北の大会で入賞する実力を持っています。台湾らしいものでは中国結びクラブもあります。

- ・帰宅後・休日

前にも述べたように、安全上の理由から、小学生は子どもだけで外出しないようにしています。友だちの家に行く時は家の人に送ってもらいます。公園で遊ぶ時も家の人と一緒に出かけます。天母地区は緑豊かな公園や設備の整った運動公園があります。現地の学校も休日の運動場は開放しています。日本人学校は本校の児童生徒保護者関係者に限って休日の施設開放をしています。少し足を伸ばせば温水プールや屋内遊技場、児童遊園地、水族館、動物園、天文館、科学館、植物園など、子どもたちの遊ぶ施設は充実しています。家で過ごす時は日本と同様ゲーム機やたまごっちなどが流行っていますので、それらで遊ぶ子どもは多いでしょう。台湾では日本のおもちゃやキャラクターものも人気があり、たくさん売られています。テレビは、100チャンネルほどあるケーブルテレビがかなり普及しています。その中にはNHKのほかに、日

本の番組を中心に放送しているチャンネルが4つあり、ドラマやバラエティー番組などの新しいものから懐かしいものまで数多く放送しています。日本のアニメーションも人気があり、日本アニメ専用チャンネルの他に、多くのチャンネルで日本のアニメーションを放送しています。

台北日本人学校の子どもたちの様子が少しでもわかっていただけたでしょうか。台湾は日本から飛行機で3時間と近く、生活してみると日本人にとっては大変過ごしやすいところですが、日本にいないのではないかと錯覚しそうな時もあります。大概の台湾人は日本人に対して好意的です。このように、安心して暮らせる環境のなかで生活できることに感謝しています。しかし、ここは紛れもなく海外の地であり、台湾の文化、生活習慣、人々の気質には日本と共通するものとあきらかに違うものがあり、油断すると失敗することもあります。台湾と日本の同じところと違うところそれぞれを見つけていくのは楽しいことです。次回は台湾の子どもたちの様子をお知らせしたいと思います。